

発酵乳短期間給与による離乳子豚の発育改善

福島県農業総合センター 畜産研究所肉畜科

部門名 畜産－豚－畜産ほ育・育成

担当者 西牧由佳・大西英高・宮本拓平・中村フチ子・丹治敏夫・松井滋

I 新技術の解説

1 要旨

子豚の離乳後の発育停滞を解消し、その後の発育改善による肥育豚の肥育期間短縮を図るため、乳酸菌を多く含み、嗜好性と栄養に富んでいる発酵乳を離乳子豚へ給与する技術を確立した。

- (1) 発酵乳と市販人工乳を1:2の比率(重量比)で混合したもの(以下「発酵乳混合飼料」という)を7日間給与すると、離乳時から離乳後21日における一日増体量は市販人工乳のみで飼養した場合に比べ有意に大きくなった(表1、図1・2)。特にこの傾向は、冬期間の給与で顕著である。
- (2) 給与期間を通じて下痢などの事故の発生は認められない。
- (3) 発酵乳混合飼料を7日間給与することにより、市販人工乳のみで飼養された肥育豚に比べ、出荷日齢が短くなる(表2)。
- (4) 発酵乳は牛乳を85°Cで30分間殺菌し、37°Cまで冷ました後、動物用乳酸菌製剤を加えて、37°C24時間発酵させ調製した。市販のヨーグルト利用も可能である。

2 期待される効果

- (1) 離乳後7日間の発酵乳給与により、子豚の発育停滞を抑えることが可能となり、離乳後に発生しやすい事故を未然に防止できる。
- (2) 特に冬期間など子豚の発育が停滞しやすい時期に利用することで、出荷日齢が短縮し、農場の生産効率が向上する。

3 適用範囲

福島県内養豚関係者

4 普及上の留意点

- (1) 農場内の疾病対策が実施されていることが前提である。
- (2) 哺乳中に餌付けをしっかりと実施する必要がある。
- (3) 離乳2~3日前から馴致のための発酵乳給与(餌付け用の浅めの容器などに1腹当たり500g程度の発酵乳を1日2回以上に分けて与える。)の実施が望ましい。

II 具体的データ等

表1 離乳時から離乳後21日における一日増体量・飼料要求率

	一日増体量(g)	飼料要求率(kg)
発酵乳:人工乳1:2 7日間	379.1 ^a 士 82.97	2.16
人工乳のみ	306.3 ^b 士 79.90	1.73

(異符号間 有意差有り:P<0.05)

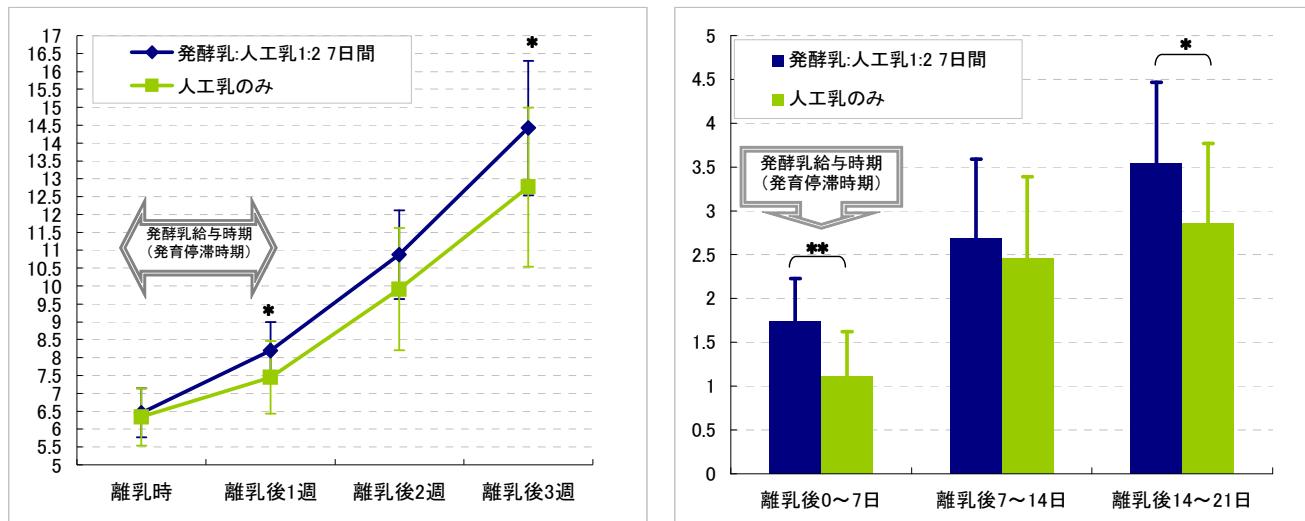


図1 生体重の推移(*:P<0.05)

図2 増体重の推移(**:P<0.01、*:P<0.05)

表2 出荷日齢

	105kg到達日齢(日齢)	出荷日齢(日齢)
発酵乳:人工乳1:2 7日間	160.7 士 24.11	156.7 士 10.51
人工乳のみ	167.9 士 32.28	165.1 士 12.16

III その他

1 執筆者

西牧由佳

2 研究課題名

離乳後の事故率改善につながる飼養管理技術の確立

3 主な参考文献・資料

(1) 平成20年度～22年度センター試験成績概要